

資 料

感染症発生動向調査事業における病原体検出状況（平成 24 年度）

高橋雅輝 岩淵香織 佐藤直人 森田晴美 齋藤幸一

平成 24 年度は、県内の病原体定点等から寄せられた 527 件について検査を実施した結果、282 の病原体（ウイルス 270 株、細菌 12 株）を検出した。

I はじめに

平成 14 年 2 月に岩手県結核・感染症発生動向調査事業の実施要領が改められ、29 医療機関が病原体定点として選定された。本報では、平成 24 年度の病原体検出結果を報告する。

II 検査対象

5 類感染症指定疾患に加え、対象外の上気道炎、下気道炎、発疹症、肝機能障害、アデノウイルス感染症、リンパ節炎、ウイルス性口内炎、中枢神経障害等も検査対象とした。検体は 14 医療機関（基幹定点 5、小児科定点 5、インフルエンザ定点 3、眼科定点 1）において採取した。表 1 に診断名別検査依頼件数を示した。

III 検査方法

1. ウイルス検査

(1) ウイルス分離

VERO、HEp-2、RD、CaCo-2、MDCK、L20B の 6 種類の培養細胞を併用してウイルス分離を行った。分離したウイルスの同定には PCR 法、RT-PCR 法及びダイレクトシーケンス法を併用した。MDCK 細胞はインフルエンザウイルスの分離に用い、赤血球凝集抑制試験により HA 亜型を決定した。L20B 細胞はポリオウイルスの分離に用いた。

(2) (RT-) PCR 法及びリアルタイム PCR 法

糞便検体については、PCR 法、RT-PCR 法によりノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス等の胃腸炎ウイルスの検出を行った。同定はリアルタイム PCR 法及びダイレクトシ

ークエンス法を用いた。

咽頭ぬぐい液、髄液等の検体については、PCR 法、RT-PCR 法により呼吸器ウイルス（RS ウイルス、パラインフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス、エンテロウイルス、ライノウイルス、ヒトパレコウイルス等）及び発疹ウイルス（ヘルペスウイルス、アデノウイルス、麻しんウイルス、風しんウイルス、パルボウイルス、エンテロウイルス等）の検出を行った。同定はダイレクトシーケンス法を用いた。

(3) その他

必要に応じて市販キット（蛍光抗体法、免疫クロマトグラフィー等）を用い、A 群ロタウイルス、アデノウイルス、単純ヘルペスウイルス等の検出を行った。

2. 細菌検査

百日咳菌の分離には Bordet-Gengou 培地を用いた。培養 4~5 日後直径約 1mm 以下の小さな集落、真珠または水銀様の光沢のある集落を選択し、PCR による同定を行った。培養検査に先立ち、LAMP 法を用いて百日咳菌の遺伝子を検出する検査を行った。

マイコプラズマについては、LAMP 法による迅速検査法を用いた。

A 群溶血性レンサ球菌については、咽頭ぬぐい液の綿棒をヒツジ血液寒天培地に塗抹し 37℃1 晩培養した。培地上で β 溶血したコロニーをストレプト LA による Lancefield の群別を行い、さらに A 群溶血性レンサ球菌については T 型別を行った。

エルシニアについては、糞便を CIN 培地 (Yersinia Selective Agar Base: Oxoid) に直接塗抹し 32°C、24 時間培養した。辺縁が透明、暗赤色、牛の眼様の特徴的なコロニーを釣菌し TSI、LIM 培地で予備同定を行い、さらに RapID キットを用いて同定した。

IV 検査結果

527 件について検査し、270 株の病原ウイルス及び 12 株の病原細菌を検出した。月別病原体検出状況を表 2 に、診断名別病原体検出状況を表 3 に示す。以下に診断名別の検出状況の概要を述べる。

1. 風しん

1 検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、パラインフルエンザウイルス 2 型及びライノウイルスが重複して検出された。

2. 麻しん

1 検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、A 群コクサッキーウイルス 9 型が検出された。

3. RS ウイルス感染症

15 検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、RS ウイルスが 6 株、アデノウイルス 2 型が 1 株、パラインフルエンザウイルス 3 型が 1 株、ライノウイルスが 3 株検出された。

4. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

11 検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、A 群溶血性レンサ球菌が 6 株検出された。T 型別試験により T4 型、T-B3264 型、T12 型が同定された。

5. 感染性胃腸炎

57 検体の糞便を検査したところ、ノロウイルス GII が 11 株、サポウイルスが 2 株、アストロウイルス 1 型が 1 株、アデノウイルス 2 型が 1 株、3 型が 1 株、A 群ロタウイルスが 1 株、A 群コクサッキーウイルス 2 型が 2 株、9 型が 1 株、エンテロウイルス 71 型が 1 株、ライノウイルスが 2 株、ヒトパレコウイルス 1 型が 1 株検出された。

検出されたノロウイルス 7 株について遺伝子型別を行ったところ、すべて GII/4 であった。また、サポウイルス 2 株を型別したところ、いずれも GI/2 であった。

6. 手足口病

13 検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ A 群コクサッキーウイルス 6 型が 1 株、9 型が 1 株、エンテロウイルス 71 型が 7 株検出された。

7. 突発性発疹

4 検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、ヒトヘルペスウイルス 6 型が 1 株検出された。

8. 百日咳

28 検体の咽頭ぬぐい液及び喀痰を検査したところ、百日咳菌が 3 株、マイコプラズマニューモニエが 1 株、ライノウイルスが 5 株、RS ウイルスが 1 株、パラインフルエンザウイルス 3 型が 1 株検出された。

9. ヘルパンギーナ

7 検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、A 群コクサッキーウイルス 2 型が 1 株、ライノウイルスが 1 株、単純ヘルペスウイルス 1 型が 1 株検出された。

10. 流行性耳下腺炎

3 検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、ムンプスウイルスが 2 株検出された。このうち 1 株は、SH 遺伝子領域の塩基配列解析によりワクチン由来株と同定された。

11. インフルエンザ

109 検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、A 香港型インフルエンザウイルスが 85 株、B 型インフルエンザウイルスが 17 株分離・検出された。B 型は山形系統が 4 株、ビクトリア系統が 10 株、系統不明が 3 株であった。

2011/2012 シーズンは 4 月中旬まで A 香港型が検出され、B 型は 5 月上旬まで検出された。2012/2013 シーズンは 11 月下旬から A 香港型が検出され始めた。A 香港型はシーズン後半まで検出され分離株の大半を占めた。一方、B 型は 2 月中旬から検出され始めたが、分離株数は少なかった (図)。

12. 流行性角結膜炎

86 検体の結膜ぬぐい液を検査したところ、アデノウイルス 3 型が 2 株、8 型が 1 株、37 型が 1 株、56 型が 4 株、単純ヘルペスウイルス 1 型が 2 株検出された。

13. 無菌性髄膜炎

21 検体の髄液及び咽頭ぬぐい液を検査したと

ころ、ムンプスウイルスが4株、エンテロウイルス71型が3株検出された。

14. 上気道炎

33検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、A香港型インフルエンザウイルスが1株、ライノウイルスが2株、アデノウイルス2型が1株、3型が1株、5型が1株、6型が1株、単純ヘルペスウイルス1型が2株、EBウイルスが1株、A群溶血性レンサ球菌が1株検出された。

15. 下気道炎

72検体の咽頭ぬぐい液及び喀痰を検査したところ、A香港型インフルエンザウイルスが1株、RSウイルスが6株、パラインフルエンザウイルス1型が1株、3型が1株、ヒトメタニューモウイルスが3株、A群コクサッキーウイルス9型が1株、エコーウイルス6型が1株、7型が2株、ライノウイルスが33株、ヒトパレコウイルス1型が2株、アデノウイルス2型が5株、5型が4株検出された。

16. 発疹症

15検体の咽頭ぬぐい液を検査したところ、パルボウイルスB19型が3株、単純ヘルペスウイルス1型が1株、帯状疱疹ウイルスが1株、ヒトヘルペスウイルス6型が1株、アデノウイルス1型が1株検出された。

17. 肝機能障害

7検体の糞便及び咽頭ぬぐい液を検査したところ、ライノウイルスが2株、アデノウイルス1型が1株検出された。

18. アデノウイルス感染症

5検体の糞便及び咽頭ぬぐい液を検査したところ、アデノウイルス1型が2株、3型が2株検出された。

V ま と め

- 11月から3月にかけてノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行が確認され、県内ではノロウイルスによる急性胃腸炎の集団発生も頻発した。検出されたノロウイルスの遺伝子型はほとんどがGII/4であった。
- 患者情報の収集解析によると、2012/2013シーズンの岩手県におけるインフルエンザの流行は11月中旬から始まり、1月下旬から2月上旬にピークを形成した。2月中旬までの間に検出されたウイルスはすべてA香港型であった。シーズン後半にはB型ウイルスが検出されたが、検出数は少なかった(図)。
- 五類感染症指定疾患以外の上気道炎及び下気道炎由来の検体からは、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス、ライノウイルス等の呼吸器ウイルスが検出されたほか、さまざまな病態に関連するエンテロウイルス、アデノウイルス等も検出されるなど、多様なウイルスが呼吸器感染症に関わっていることが示唆された。今後も呼吸器ウイルスのサーベイランスを継続する必要がある。

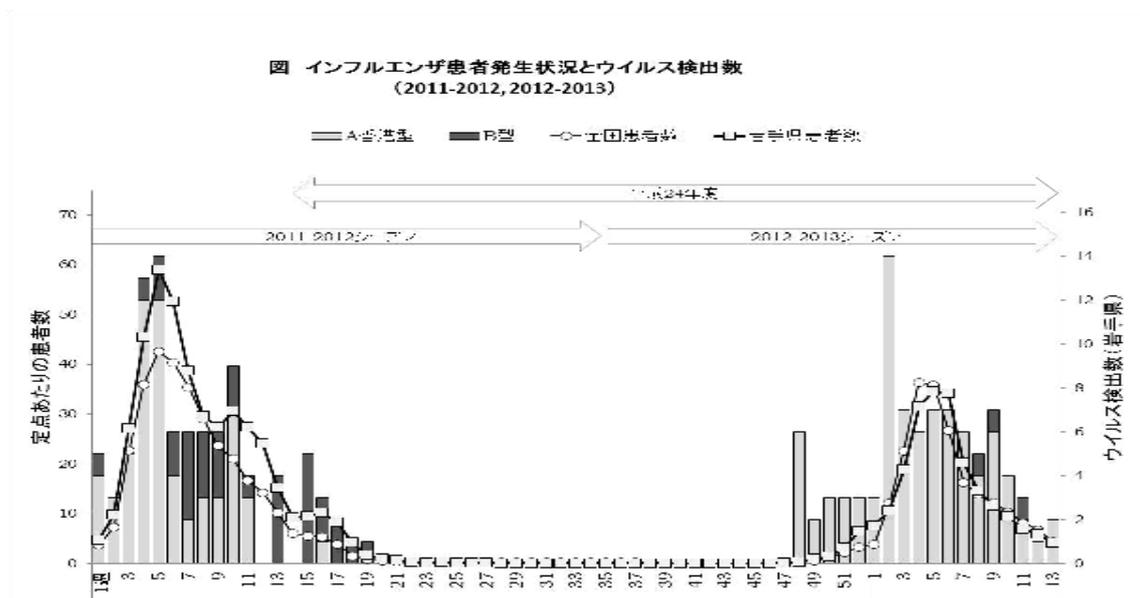


表1 診断名別検査依頼件数(平成24年4月～平成25年3月)

診断名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
五類感染症指定疾患	急性脳炎								2					2	
	風しん								1					1	
	麻しん						1							1	
	RSウイルス感染症					1		6		3	2	3		15	
	咽頭結膜熱				1									1	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				7	4								11	
	感染性胃腸炎	9	6	7	6	5		2	4	7	8	1	2	57	
	水痘					1				1				2	
	手足口病			1	3	3	6							13	
	伝染性紅斑					1	1							2	
	突発性発疹					1		1					2	4	
	百日咳		14	1		4	1		2	2	3	1		28	
	ヘルパンギーナ				4	1			2					7	
	流行性耳下腺炎							2				1		3	
	インフルエンザ	12	3								15	37	22	20	109
	急性出血性結膜炎								1			1			2
	流行性角結膜炎	8	7	4	8	10	5	7	4	5	17	6	5	86	
	性器ヘルペスウイルス感染症								1						1
無菌性髄膜炎		1	4	9	3	1	3							21	
五類感染症指定疾患以外	上気道炎	1		3	10	2	1		2	7	4	1	2	33	
	下気道炎		7	3	1	6	2	7	14	18	10	1	3	72	
	発疹症					6	1	1		1	1	3	2	15	
	肝機能障害							2	1	2			2	7	
	アデノウイルス感染症				1	2			1		1			5	
	リンパ節炎							1		1	3			5	
	ウイルス性口内炎	1		1	1				1				1	5	
	中枢神経障害							1	2				1	4	
	不明熱										1			1	
	食中毒			1										1	
	その他の炎症※							1	1		1		1	4	
	その他の感染症	2	1	1	1	1	1				1		1	9	
総計	33	39	26	52	51	22	34	37	62	90	39	42	527		

※筋炎、膀胱炎、結膜炎、血管炎症候群

表2 月別病原体検出状況(平成24年4月～平成25年3月)

検出病原体	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
アデノウイルス 1型				1					2	1			4
アデノウイルス 2型					1		1	1	2	3			8
アデノウイルス 3型				3	2					1			6
アデノウイルス 5型						1	2			2			5
アデノウイルス 6型											1		1
アデノウイルス 8型		1											1
アデノウイルス 37型		1											1
アデノウイルス 56型				1	1	2							4
ヒトヘルペスウイルス 6型					1						1	1	3
A香港型インフルエンザウイルス	1								16	35	21	14	87
B型インフルエンザウイルス(山形系統)	3	1											4
B型インフルエンザウイルス(ビクトリア系統)	7	1									1	1	10
B型インフルエンザウイルス(系統不明)	1	1										1	3
RSウイルス			1	1			5	1	1	2	2		13
A群コクサッキーウイルス 2型					2			1					3
A群コクサッキーウイルス 6型						1							1
A群コクサッキーウイルス 9型					1	1	2						4
エコーウイルス 6型									1				1
エコーウイルス 7型						2							2
ムンプスウイルス		1	1	1		1	1				1		6
単純ヘルペスウイルス 1型				2	1				2			2	7
エンテロウイルス 71型			1	1	3	4	2						11
A群ロタウイルス		1											1
アストロウイルス 1型					1								1
サポウイルス			1									2	3
パラインフルエンザウイルス 1型									1				1
パラインフルエンザウイルス 2型								1					1
パラインフルエンザウイルス 3型					1	1			1				3
ライノウイルス		6	1		2	1	8	16	11	4	3	1	53
パルボウイルス B19					3								3
ヒトメタニューモウイルス					1					1		1	3
ノロウイルス GI	1	1						3	4	1		1	11
ヒトバレコウイルス 1型					2	1							3
帯状疱疹ウイルス					1								1
EBウイルス								1					1
A群溶血性レンサ球菌				4	3								7
百日咳菌		3											3
マイコプラズマ		1											1
エルシニアエンテロコリチカ(O8)			1										1
総 計	13	18	6	14	26	15	21	24	41	50	30	24	282

表3 診断名別病原体検出状況(平成24年4月～平成25年3月)

診断名	(検体数)	検出病原体	検出数
風しん	(1)	パラインフルエンザウイルス 2型	1
		ライノウイルス(重複検出)	1
麻しん	(1)	A群コクサッキーウイルス 9型	1
RSウイルス感染症	(15)	RSウイルス	6
		パラインフルエンザウイルス 3型	1
		アデノウイルス 2型	1
		ライノウイルス	3
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(11)	A群溶血性レンサ球菌	6
感染性胃腸炎	(57)	ノロウイルスGII	11
		サポウイルス	2
		アストロウイルス 1型	1
		アデノウイルス 2型	1
		アデノウイルス 3型	1
		A群ロタウイルス	1
		A群コクサッキーウイルス 2型	2
		A群コクサッキーウイルス 9型	1
		エンテロウイルス 71型	1
		ライノウイルス	2
		ヒトパレコウイルス 1型	1
手足口病	(13)	A群コクサッキーウイルス 6型	1
		A群コクサッキーウイルス 9型	1
		エンテロウイルス 71型	7
突発性発疹	(4)	ヒトヘルペスウイルス 6型	2
百日咳	(28)	百日咳菌	3
		マイコプラズマニューモニエ	1
		ライノウイルス	5
		RSウイルス	1
		パラインフルエンザウイルス 3型	1
ヘルパンギーナ	(7)	A群コクサッキーウイルス 2型	1
		ライノウイルス	1
		単純ヘルペスウイルス 1型	1
流行性耳下腺炎	(3)	ムンプスウイルス	2
インフルエンザ	(109)	A香港型インフルエンザウイルス	85
		B型インフルエンザウイルス(山形系統)	4
		B型インフルエンザウイルス(ビクトリア系統)	10
		B型インフルエンザウイルス(系統不明)	3
流行性角結膜炎	(86)	アデノウイルス 3型	2
		アデノウイルス 8型	1
		アデノウイルス 37型	1
		アデノウイルス 56型	4
		単純ヘルペスウイルス 1型	2

診断名	(検体数)	検出病原体	検出数
無菌性髄膜炎	(21)	ムンプスウイルス エンテロウイルス 71型	4 3
上気道炎	(33)	A香港型インフルエンザウイルス ライノウイルス アデノウイルス 2型 アデノウイルス 3型 アデノウイルス 5型 アデノウイルス 6型 単純ヘルペスウイルス 1型 EBウイルス A群溶血性レンサ球菌	1 2 1 1 1 1 2 1 1
下気道炎	(72)	A香港型インフルエンザウイルス RSウイルス パラインフルエンザウイルス 1型 パラインフルエンザウイルス 3型 ヒトメタニューモウイルス A群コクサッキーウイルス 9型 エコーウイルス 6型 エコーウイルス 7型 ライノウイルス ヒトパレコウイルス 1型 アデノウイルス 2型 アデノウイルス 5型	1 6 1 1 3 1 1 2 33 2 5 4
発疹症	(15)	パルボウイルス B19 単純ヘルペスウイルス 1型 帯状疱疹ウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型 アデノウイルス 1型	3 1 1 1 1
肝機能障害	(7)	ライノウイルス アデノウイルス 1型	2 1
アデノウイルス感染症	(5)	アデノウイルス 1型 アデノウイルス 3型	2 2
リンパ節炎	(5)	ライノウイルス	1
ウイルス性口内炎	(5)	単純ヘルペスウイルス 1型	1
中枢神経障害	(4)	サポウイルス	1
食中毒	(1)	エルシニアエンテロコリチカ(O8)	1
その他の感染症	(9)	ライノウイルス	3
総計			282

資 料

QFT 検査の実施状況（平成 24 年度）

○佐藤直人 森田晴美 高橋雅輝 岩渕香織 齋藤幸一

I はじめに

クオンティフェロン（QFT）検査とは、BCG 接種の影響を受けずに結核感染の有無を検査する方法で、結核の接触者健診の手引き（2010 年 6 月改訂第 4 版）において結核感染の有無の検査法として第一優先の検査法として位置づけられている。当センターでは、平成 18 年度から行政検査対応として QFT 検査を実施している。

今回、平成 24 年度の QFT 検査の実施状況と結果について報告する。

II 対象と検査方法

平成24年4月～平成25年3月に保健所から検査依頼があった1,217検体についてQFT検査を実施した。検査キットは、クオンティフェロン® TBゴール（Cellestis社）を用い、結核菌に感作されたTリンパ球が特異抗原の刺激を受けて分泌したインターフェロン-ガンマ（IFT- γ ）を酵素免疫

測定法（ELISA法）により測定し、QFT-3G解析ソフトによりIFN- γ 値及び判定結果（陽性、判定保留、陰性、判定不可）を得た。

III 結果

月別の検査件数を図1に、保健所別結果を表1に、年齢層別結果を表2に示した。

24年度は、1,217検体についてQFT検査を実施したところ、陽性73検体（6.0%）、判定保留68検体（5.6%）、陰性1,072検体（88.1%）、判定不可4検体（0.3%）であった。月別にみると11月の検査件数が最も多かった。保健所別の検査件数は、釜石、中部、県央の順に多かった。年齢層別では、被験者は30代（21.4%）、40代（19.7%）、50代（21.0%）が多く、60代14.3%、70歳以上は8.0%であった。陽性率は60代、70歳以上が高く、それぞれ12.1%、11.3%であった。

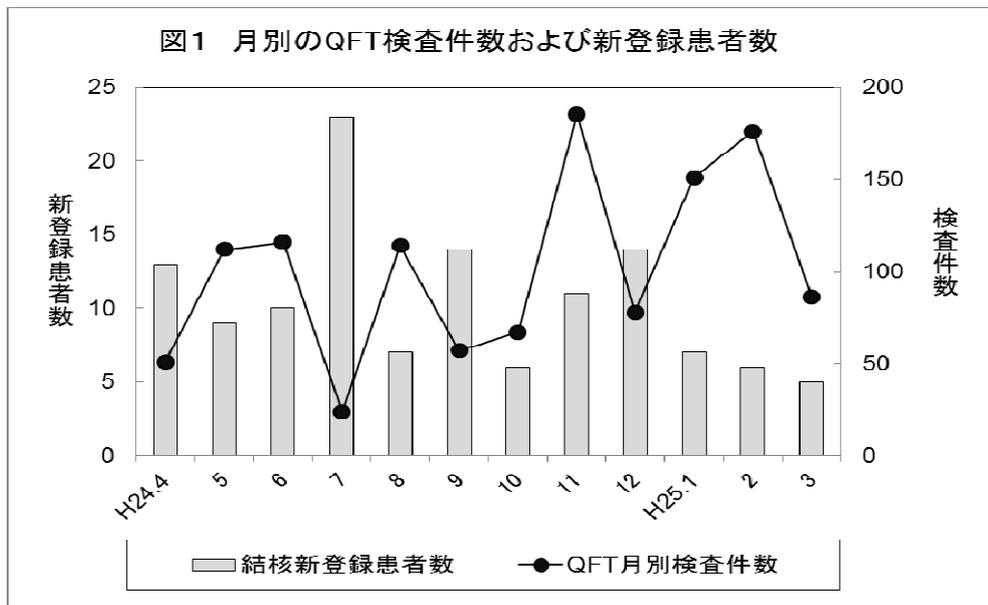


表1 QFT検査被験者数と検査結果（各保健所別、平成24年4月～平成25年3月）

保健所	被験者数	検査結果				陽性率 (%)
		陽性	判定保留	陰性	判定不可	
県央	144	5	18	120	1	3.5
中部	219	14	16	189	0	6.4
奥州	58	4	0	54	0	6.9
一関	93	3	3	86	1	3.2
大船渡	86	4	0	81	1	4.7
釜石	375	22	15	338	0	5.9
宮古	86	8	3	74	1	9.3
久慈	82	7	9	66	0	8.5
二戸	74	6	4	64	0	8.1
合計	1217	73	68	1072	4	6.0

表2 QFT検査被験者数と検査結果（年齢層別、平成24年4月～平成25年3月）

年齢層	被験者数	検査結果				陽性率 (%)	年齢層 割合(%)
		陽性	判定保留	陰性	判定不可		
0-5歳	2	0	0	2	0	0.0	0.2
6-11歳	23	1	1	21	0	4.3	1.9
12-19歳	37	1	0	36	0	2.7	3.0
20-29歳	127	4	9	114	0	3.1	10.4
30-39歳	261	9	8	244	0	3.4	21.4
40-49歳	240	9	18	211	2	3.8	19.7
50-59歳	255	16	11	228	0	6.3	21.0
60-69歳	174	21	8	145	0	12.1	14.3
70歳以上	97	11	13	71	2	11.3	8.0
不明	1	1	0	0	0	100.0	0.1
合計	1217	73	68	1072	4	6.0	100.0

資 料

*Yersinia enterocolitica*による岩手県初の食中毒事件におけるO8群の分離報告

熊谷学 山中拓哉 太田美香子 小野正文

【緒言】

Yersinia enterocolitica (以下 *Y.e*) は、低温域でも増殖できる食中毒菌である。日本国ではS47に食中毒事件の原因菌として本菌が分離〔1〕されて以来、H24末までに23件の食中毒事件が発生している（厚生労働省食中毒統計）。また、*Y.e* O8群を原因とする食中毒事件が発生した場合には、直ちに厚生労働省へ報告することが、自治体に義務付けられている。（食品衛生法）

H24.9.6に盛岡市の旅館で喫食した7小学校（宮城県4校、青森県2校、岩手県1校）の児童等261名のうち92名が発症（発熱、腹痛、倦怠感、下痢）する岩手県初の、*Y.e* O8群を原因菌とする食中毒事件が発生した。

筆者らは、当初原因菌の分離が困難であると思われた回復期の有症者便から、低温増菌培養法によって *Y.e* O8群を分離した。

【検体】

H24.9.27到着した岩手県1校8名（有症者5名、無症状者3名）の糞便を検体とした。有症者5名の検体はいずれも回復後10日以上経過したものであった。

【検査方法】

直接分離培養法、増菌培養法及び低温増菌培養法を用いて増菌等を行なった後に、同定した。

1 増菌等

（1）直接分離培養法

検体を、CIN（32℃ 24~48hr）とSS（37℃ 24hr）、DHL（37℃ 24hr）及びマッコッキー寒天培地（25℃ 48hr）のいずれかの培地で直接分離培養した。

（2）増菌培養法〔3〕

生理食塩水約10mlに検体約0.1gを混和後、32℃で2日間培養した。その1日目と2日目にそれぞれの培養液1白金耳を、（1）直接分離培養法で培養した。

（3）低温増菌培養法

生理食塩水約10mlに検体約0.1g混和または1/15Mリン酸緩衝液（pH7.6）20mlに糞便約1g混和後、4℃で21日間培養した。その間の4日目、12日目、18日目及び21日目にそれぞれの培養液1白金耳を、（1）直接分離培養法で培養した。

2 同定

TSI、LIM、SIM及びCLIG培地用いて確認培養等を行ない、「表1 分離菌株の生化学的性状」の性状を示した菌株を *Yersinia* 属と推定した。

次にその菌株を、簡易同定キット、*Y.e* O群別用免疫血清凝集反応及びPCR検査を用いて *Y.e* O8群と同定した。

表1 分離菌株の生化学的性状

	リジン脱炭酸	運動性 (25℃)	運動性 (37℃)	MUG※	O 群別用免疫血清
菌株	—	+	—	—	O8

※β-グルクロニダーゼ

【結果及びまとめ】

一般に病原菌は急性期の糞便に多数存在し、回復に伴い次第に減少すると言われている〔2〕。筆者らは、有症者5名の検体が回復後10日以上経過したものであったために原因菌の分離を困難と考えて、(1)直接分離培養法に加えて(2)増菌培養法及び(3)低温増菌培養法を用いて検査した。当該検査における増菌分離及び確認同定は1検体あたり最大10回にのぼり、全検体の結果を確定するまでに概ね1か月を費やした。

その結果、低温増菌培養法のみによって、有症者3名の検体から *Y.e* O8群を分離することができた。また、その他の方法並びに他の検体から *Y.e* は分離されなかった(表2)。

食中毒事件発生時において、分析機関には常に分離培養法等によって短時間で原因菌を分離することが要求される。そのなかで当該分離報告は、低温増菌培養法は多くの労力と時間が必要であること及び、急性期の患者便の検査が速やかなる原因究明につながることを示唆している。

表2 *Yersinia enterocolitica* O8 群の分離結果

検体	症状	直接分離培養法	増菌培養法		低温増菌培養法 4℃								
			32℃		生理食塩水				1/15M リン酸緩衝液				
			24hr	48hr	4day	12day	18day	21day	※4day	12day	18day	21day	
1	有	—	—	—	+					—	+		
2	有	—	—	—	+					—	—	+	
3	有	—	—	—	—	+				—	+		
4	有	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	有	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※アルカリ処理後培養のみ

＋：分離 ー：非分離

〔1〕 Asakawa, Y. et al. (1973). The Journal of Hygiene, 71(4), 715-723.

〔2〕 微生物検査必携 細菌・真菌検査 第3版(1987)、日本公衆衛生協会 D-55 - D-69

〔3〕 OXOIDマニュアル (2004)、関東化学 2-375 - 2-376

資 料

岩手県環境保健研究センターにおいて寄贈を受けた昆虫標本

新井 隆介

岩手県環境保健研究センターでは、1981年から1986年にかけて採集された、チョウ類を中心とする昆虫標本の寄贈を受けた。その中には、いわてレッドデータブックに掲載されているゴマシジミやチャマダラセセリなどの標本があり、大変貴重な資料である。

I 寄贈標本

岩手県環境保健研究センターでは、2012年にチョウ類を中心とした昆虫標本の寄贈を受けた。寄贈標本は、当センター地球科学部に当時勤務していた期限付臨時職員川目智之氏が1981年から1986年にかけて、中学・高校生の時に採集したものである。その中には、いわてレッドデータブック³⁾に掲載されている種が含まれており、大変貴重な資料であることから、ここに紹介する。

寄贈標本はチョウ目78点、甲虫目1点、ハチ目1点の合計80点で、そのうち岩手県内の標本が77点とその大半を占め、その他に青森県でギンイチモンジセセリが1点、秋田県でウスバシロチョウが2点となっている(別表)。一部の標本には、虫食いやカビが発生していたが、保存状態は比較的良好であった。

II 注目すべき標本

寄贈標本のうち、注目すべき標本について、以下に紹介する。

1 ゴマシジミ

本種は、2002年に「岩手県希少野生動植物の保護に関する条例」により、捕獲等が禁止される指定野生動植物に指定された。このため、現在、岩手県では原則として採集できないことから大変貴重な標本である。

2 チャマダラセセリ

本種は、岩手県では一関市で絶滅し、盛岡市と宮古市以北に生息^{1) 3)}とされているが、2013年に改訂された岩手県版レッドリスト²⁾では、BランクからAランクに変更となり、絶滅の危機が増大している。一戸町における生息記録は、根口(1972)⁴⁾に記載があるが、その調査より約10年後の採集記録となる。また、標本は消失してしまっただが、川目氏によると盛岡市上米内でも本種を採集したとのことである。

III 謝辞

貴重な標本を寄贈くださった川目智之氏に改めて感謝申し上げます。また、非特定営利活動法人日本チョウ類保全協会中村康弘事務局長からは、寄贈標本の目録を発表するよう勧めいただき、本資料をまとめるにいたった。岩手県一戸町立図書館姉帯裕子氏をはじめとする職員の方々に文献調査で御協力いただいた。ここに感謝申し上げます。

IV 文献

- 1) 間野隆裕・藤井恒編:日本産蝶類都道府県別レッドリスト(三訂版).やどりが特別号日本産チョウ類の衰亡と保護第6集:114-117,2009.
- 2) 岩手県環境生活部自然保護課:レッドリストの改訂について.<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?of=1&ik=0&cd=44567> (2013年6月14日確認)

- 3) 岩手県生活環境部編:いわてレッドデータブック pp430,岩手県,2001. 5) 日本チョウ類保全協会編:フィールドガイド日本のチョウ.誠文堂新光社,2012.
- 4) 根口勉:一戸町の蝶 No.3.pp3,1972.

別表 寄贈標本一覧 (1/2)

No.	科名	種名	採集地	採集年月日	雌雄	採集者	備考
チョウ目							
1	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ	盛岡市上米内	9. Apr. 1983	♂	川目智之	
2	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ	盛岡市上米内	12. Apr. 1983	♀	川目智之	
3	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ	盛岡市上米内	29. Apr. 1986	♂	川目智之	
4	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ	盛岡市上米内	5. Apr. 1987	♂	川目智之	
5	アゲハチョウ	ウスバシロチョウ	盛岡市上米内	10. Jun. 1981	♀	川目智之	
6	アゲハチョウ	ウスバシロチョウ	宮古市平津戸	11. Jun. 1982	♂	川目智之	
7	アゲハチョウ	ウスバシロチョウ	秋田県横手市山内	5. Jun. 1983	♂	川目智之	
8	アゲハチョウ	ウスバシロチョウ	秋田県横手市山内	5. Jun. 1983	♀	川目智之	
9	シロチョウ	ヒメシロチョウ	岩手郡雫石町丸谷地	16. May. 1981	♀	川目智之	春型
10	シロチョウ	ヒメシロチョウ	岩手郡滝沢村滝沢	26. May. 1984	♂	川目智之	春型
11	シロチョウ	ヒメシロチョウ	岩手郡岩手町土川	15. May. 1985	♂	川目智之	夏型
12	シジミチョウ	ゴイシジミ	盛岡市上米内	11. Oct. 1981	♀	川目智之	
13	シジミチョウ	オナガシジミ	盛岡市上米内	*18. Jun. 1986	♀	川目智之	
14	シジミチョウ	オナガシジミ	盛岡市上米内	*22. Jun. 1986	♀	川目智之	
15	シジミチョウ	ウスイロオナガシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	10. Jul. 1983		川目智之	
16	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	10. Jul. 1983		川目智之	
17	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*9. Jun. 1984		川目智之	
18	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*14. Jun. 1984		川目智之	
19	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*12. Jun. 1986		川目智之	
20	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	宮古市墓目	*13. Jun. 1986		川目智之	
21	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*14. Jun. 1986		川目智之	
22	シジミチョウ	ウラミスジシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	17. Jul. 1983	♂	川目智之	
23	シジミチョウ	ウラミスジシジミ	盛岡市上米内	*15. Jun. 1984	♀	川目智之	
24	シジミチョウ	ウラミスジシジミ	岩手郡岩手町土川	*11. Jun. 1985	♂	川目智之	
25	シジミチョウ	ウラミスジシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*12. Jun. 1986	♂	川目智之	
26	シジミチョウ	ウラミスジシジミ	宮古市墓目	*13. Jun. 1986	♂	川目智之	
27	シジミチョウ	ウラミスジシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*14. Jun. 1986	♂	川目智之	
28	シジミチョウ	アカシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	18. Jul. 1982		川目智之	
29	シジミチョウ	アカシジミ	岩手郡岩手町土川	1. Jul. 1984		川目智之	
30	シジミチョウ	アカシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	10. Jul. 1983	♀	川目智之	
31	シジミチョウ	ウラナミアカシジミ	岩手郡岩手町土川	1. Jul. 1984	♀	川目智之	
32	シジミチョウ	ウラナミアカシジミ	盛岡市上米内	*7. Jun. 1986	♀	川目智之	
33	シジミチョウ	アイノミドリシジミ	盛岡市上米内	*16. Jun. 1984	♀	川目智之	
34	シジミチョウ	アイノミドリシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*12. Jun. 1986	♀	川目智之	
35	シジミチョウ	メスアカミドリシジミ	盛岡市上米内	*6. Jun. 1984	♀	川目智之	
36	シジミチョウ	メスアカミドリシジミ	盛岡市上米内	*26. May. 1985	♂	川目智之	
37	シジミチョウ	ミドリシジミ	盛岡市上米内	*15. Jun. 1986	♀	川目智之	
38	シジミチョウ	ミドリシジミ	盛岡市上米内	*17. Jun. 1986	♂	川目智之	
39	シジミチョウ	ミドリシジミ	盛岡市上米内	*6. Jul. 1986	♀	川目智之	
40	シジミチョウ	オオミドリシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*9. Jun. 1985	♂	川目智之	

- ガ類を除くチョウ目の科名、和名については「フィールドガイド日本のチョウ」⁵⁾に従った。
- 採集地の標記は、現在の行政区画の市町村名に統一した。
- 成虫以外で採集し、飼育羽化させた個体については、採集年月日を羽化年月日とし、年月日の前に*印を付した。

別表 寄贈標本一覧 (2/2)

No.	科名	種名	採集地	採集年月日	雌雄	採集者	備考
チョウ目							
41	シジミチョウ	オオミドリシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*15. Jun. 1985	♀	川目智之	
42	シジミチョウ	ハヤシミドリシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*13. Jun. 1986	♀	川目智之	
43	シジミチョウ	ウラジロミドリシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*5. Jun. 1985	♂	川目智之	
44	シジミチョウ	ウラジロミドリシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*8. Jun. 1985	♂	川目智之	
45	シジミチョウ	ウラジロミドリシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	*14. Jun. 1986	♂	川目智之	
46	シジミチョウ	トラフシジミ	盛岡市繫	5. May. 1982	♂	川目智之	
47	シジミチョウ	トラフシジミ	盛岡市繫	5. May. 1982	♀	川目智之	春型
48	シジミチョウ	ミヤマカラスシジミ	岩手郡岩手町土川	8. Aug. 1981	♂	川目智之	
49	シジミチョウ	クロシジミ	盛岡市上米内	31. Jul. 1981	♀	川目智之	
50	シジミチョウ	クロシジミ	盛岡市上米内	7. Aug. 1981	♀	川目智之	
51	シジミチョウ	ゴマシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	11. Aug. 1986	♂	川目智之	
52	シジミチョウ	ゴマシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	11. Aug. 1986	♂	川目智之	
53	シジミチョウ	ゴマシジミ	岩手郡滝沢村滝沢	11. Aug. 1986	♀	川目智之	虫食い
54	シジミチョウ	オオゴマシジミ	和賀郡西和賀町沢内	9. Aug. 1987	♂	川目智之	
55	シジミチョウ	オオゴマシジミ	和賀郡西和賀町沢内	9. Aug. 1987	♂	川目智之	
56	シジミチョウ	オオゴマシジミ	和賀郡西和賀町沢内	9. Aug. 1987	♀	川目智之	
57	シジミチョウ	オオゴマシジミ	和賀郡西和賀町沢内	9. Aug. 1987	♀	川目智之	
58	シジミチョウ	ヒメシジミ	下閉伊郡岩泉町岩泉	4. Jul. 1982	♂	川目智之	小型
59	シジミチョウ	ヒメシジミ	下閉伊郡岩泉町岩泉	4. Jul. 1982	♂	川目智之	大型
60	シジミチョウ	ヒメシジミ	下閉伊郡岩泉町岩泉	4. Jul. 1982	♂	川目智之	
61	タテハチョウ	テングチョウ	岩手郡岩手町土川	1. Jul. 1984		川目智之	
62	タテハチョウ	アサギマダラ	岩手郡雫石町長山	17. Aug. 1986	♀	川目智之	
63	タテハチョウ	サカハチチョウ	宮古市墓目	18. May. 1982	♂	川目智之	春型
64	タテハチョウ	サカハチチョウ	盛岡市上米内	23. May. 1981	♀	川目智之	春型
65	タテハチョウ	サカハチチョウ	宮古市平津戸	22. May. 1981	♂	川目智之	春型
66	タテハチョウ	キベリタテハ	岩手郡雫石町長山	17. Aug. 1986	♂	川目智之	
67	タテハチョウ	コムラサキ	宮古市墓目	29. Jul. 1981	♂	川目智之	
68	タテハチョウ	コムラサキ	宮古市平津戸	2. Aug. 1981	♂	川目智之	
69	タテハチョウ	オオムラサキ	岩手郡滝沢村滝沢	30. Jul. 1981	♂	川目智之	
70	タテハチョウ	ツマジロウラジャノメ	宮古市墓目	18. May. 1982	♂	川目智之	
71	タテハチョウ	ツマジロウラジャノメ	宮古市墓目	18. May. 1982	♂	川目智之	
73	セセリチョウ	キバネセセリ	岩手郡滝沢村滝沢	18. Jul. 1982	♀	川目智之	
72	セセリチョウ	チャマダラセセリ	二戸郡一戸町奥中山	1. Jun. 1986	♀	川目智之	
74	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ	青森県青森市浪館	6. Jun. 1982		川目智之	
75	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	宮古市区界	8. Aug. 1983		川目智之	
76	トラガ	トラガ	盛岡市上米内	1981		川目智之	
77	カギバガ	ホシベッコウカギバ	盛岡市上米内	3. Sep. 1981	♂	川目智之	
78	カギバガ	ホシベッコウカギバ	盛岡市上米内	3. Sep. 1981	♀	川目智之	
コウチュウ目							
79	ハンミョウ	ハンミョウ	奥州市水沢区佐倉河	Aug. 1982		及川潤	
ハチ目							
80	ヒメバチ	コブフシヒメバチsp.	盛岡市城西町	19. Oct. 1982		川目智之	

- ガ類を除くチョウ目の科名、和名については「フィールドガイド日本のチョウ」⁵⁾に従った。
- 採集地の標記は、現在の行政区画の市町村名に統一した。
- 成虫以外で採集し、飼育羽化させた個体については、採集年月日を羽化年月日とし、年月日の前に*印を付した。